

震災の経験を未来へ生かす

川口小学校 六年 関

裕子

中越地震の日は、昨日のことのように覚えて
います。あのときのつらさや悲しみは今で
も忘れられません。
とてもつらい経験でしたが、学んだことが
たくさんありました。
一つ目は、協力することの大切さです。家
族、地域、親せき、学校の友だちなど協力が
必要な場面がたくさんありました。災害が起
こってみんな困っているときに自分勝手にわ
がままを言ってばかりだと協力することにな
りません。いろいろな場面で「心が一つにな
れば協力することができると実感しました。
二つ目は、電気・ガス・水道の三つのライ
フラインは私たちにとって大切なものだとい
うことです。今まで、スイッチ一つの生活が
当たり前だと思っていた私は悲しくなりまし
た。しかし、震災があったことで、ありがた
みを実感することができましたと思います。「大

切に使う」「むだにしない」ということの意味が分かったと思います。

三つ目は、家族の絆です。震災時、私を入れて家族三人しかいませんでした。「もし、私が一人で家にいたら：」と考えました。そのとき、私は家族の支えと絆でここまで生きてこられたのだと実感しました。それまでは、自分のことは自分でできると思っていました。が、家族を始めとしたたくさんの方の力がないとだめなのだと思います。

震災を経験した私には大きなめあてがありません。それは、「助け合い、協力して生きること」です。人やものに感謝すること、心を一つにすること、家族を大切にすることなどがめあての実現につながっていくことだと思います。

この震災の経験を未来に生かしていきます。